

久松義典 （以て） 評論家、小説家。安政二年十月江戸生れ。明治二十年六月一日歿（二八至一九〇五）。幼名芳次郎。號操軒隱士、昨非樓主人、狷堂、狷堂野史、狷堂野夫、墨林處士。東京英語學校中退。明治十一年栃木縣師範學校教員、のち校長。傍ら自由民権を鼓吹。十五年之憲法進黨に加入し報知社入社。二十二年可北海道毎日新聞に主筆。三十年代栃木に移住し、著述も社會主義化した。

譯著書、（一九〇五） 維廉・阿斯福編 （一九〇五） 西雄辨大家集 （譯、明治十一年七月十五

日、續編・十一月十七日巖々堂）、 可泰革命史鑑・續編（佛蘭西革命

之部） （纂譯、第壹冊、明治十六年四月二十五日、第貳冊・十七年

五月五日巖々堂）、 可讀史 （譯、明治十九年一月四日京

都、改進黨本店）、 可殘燈一點 （操軒隱士名、明治二十一年一月前

刊、金港堂）、 『近世社會主義評論』（明治二十二年十月二十日文學同

志會）、 『社會研究新論』（明治二十四年二月十七日文學尚志會）、

『最近國家社會主義』（明治二十四年六月一日文學尚志會）等。